

平成 24 年度 地球温暖化対策実施状況と今後の実施方法**1. 住宅用太陽熱利用システム設置補助金**

実施内容：住宅用太陽熱利用システム設置者に対して補助金の交付を実施

実施期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

予 算：1,200,000 円

補助金額：補助対象経費の額に 10 分の 1 を乗じて得た額、または 30,000 円の内いづれか低い額（1,000 円未満切り捨て）

実施結果：1 月末現在の補助件数 26 件

交付金額 778,000 円（執行率 64.8%）

【検証】

- ・ 現在は太陽光発電システムの設置が増え、太陽熱利用システム導入は比較的少ないですが、その関心も増加傾向です。熱から熱への利用はエネルギーロスが少なく、灯油やガスのエネルギー消費量を大きく抑えることができるため、手ごろな価格で自然エネルギーを利用できる方法として今後も普及させていく必要があります。
- ・ 補助金申請者の殆どが、以前設置した物が故障等により使用に耐えなくなったための交換設置となっていますが、太陽光発電システムを設置した方の併設も増えています。

【H25 年度実施方法】

- ・ 補助制度は H24 年度と同様
- ・ 設置者を増やすため、太陽熱利用の利点等を導入した方の感想なども広報し、H24 年度以上に周知していく。

【効果】

- ・ 手軽な太陽エネルギーの利活用という意識向上に繋がる。
- ・ 給湯に使用される化石燃料の削減効果が期待できる。

2. 子どもエコツアーの実施

実施内容：小学 4 年生を対象として“生活廃棄物”“エネルギー”“水”に関する施設を見学するバスツアー

実施期間：5 月～11 月（週 1 回 火曜か水曜のどちらか）

実施方法：市が指定した 6 施設の中から各学校の授業内容にあった 3～4 施設を選び、市のバスを使用してクラス毎実施。

実施結果：実施回数 20 回、参加小学校 13 校

【検証】

- ・ 学校での環境学習に合わせて、それぞれの学習内容に合った施設を体感見学できるため、環境教育として有効です。
- ・ これまでの実施方法では授業に関する施設をただ「見学しました。」で終わっているため、見学したことを生活にどう活かし、継続していくかについて発展させる必要があります。

【H25 年度実施内容】

- ・ 実施期間、実施方法は H24 年度と同様。
- ・ ツアーを申し込むクラスは、目的や活用方法などを明確にし、実施後は学校生活あるいは家庭生活にどのように活かされているかを検証報告いただきます。

【効果】

- ・ 目的を持たせることで環境問題に対して真剣に取り組む姿勢が身に付く。
- ・ どう活かされているかを報告することで、継続的な取り組みが期待できる。
- ・ 子どもがやるなら大人もやらなければならないという意識改革に繋がる。

3. グリーンカーテン運動の実施

実施内容：夏期の節電対策として、緑のカーテンを普及させるため、協力者に種を配布し実施してもらう。

実施期間：6月～9月

実施方法：5月に募集を行い、協力していただける方につる系植物の種を配布
8月の晴天時、一日だけカーテンの内と外の気温を、午後2時頃計測
10月にグリーンカーテンの写真と感想、温度の測定結果を報告

参加数：保育園9園、小学校6校、中学校1校、一般32人

実施結果：平均外気温 34.0℃

平均内気温 31.6℃

効果 - 2.4℃

【検証】

- ・ 種の配布時期が遅かったこと、気候等に問題があったためか、殆どの方がカーテンにならず、猛暑日となる8月に間に合わなかったため、今後は種の配布時期を早めていきます。
- ・ 報告から、多少でも日影ができれば気温を下げる効果があることが判明したため、夏期の節電対策として大変に有効です。

【H25年度実施方法】

- ・ 3月下旬より募集を行い、種の配布を4月下旬までに行う。
- ・ 基本的な育て方を種の配布時に説明する。
- ・ H24年度と同様に、一日の気温と写真の撮影を行ってもらう。
- ・ 10月の報告時には、写真と感想、温度の測定結果に加え、節電効果を報告してもらう。
- ・ 報告内容から得られる効果を検証し、ホームページで広く周知していく。

【効果】

- ・ グリーンカーテンを育てることで、自らが率先して節電に取り組んでいるという意識に繋がる。
- ・ ホームページ上に効果を掲載することで新たな取り組みへと繋がり、波及的効果が期待できる。

4. ライトダウンキャンペーンへの協力

実施内容：環境省が地球温暖化防止対策の一環として呼び掛けている「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」に協賛し、伊那市でも市民・事業者に対して節電への協力を呼びかける。

- ① 期間中、昼夜問わず、出来る限りの消灯。
- ② 特別実施日は、20時～22時まで「夜間一斉ライトダウン」とし、事業等へ支障のない範囲で消灯。

実施期間：6月21日～7月7日

特別実施日：6月21日（夏至）と7月7日（土）の二日間

実施方法：伊那市公式ホームページに掲載

伊那商工会議所、伊那市商工会、伊那市青年会議所へ協力依頼
特別実施日は市庁舎、体育施設の所管課へ協力依頼
市職員向けポータルサイトにより、職員向けの協力依頼

【検証】

- ・ 防犯上の問題、業務への支障などから強制はできないため、協力依頼に止まり、取組みの効果が不明となっています。
- ・ 取組みが不明であるがゆえに、普及状況が正確に把握できていません。

【H25 度実施方法】

- ・ H24 度実施方法に加え、取組みに賛同していただける個人、事業者を募集する。
- ・ 取組内容を実施期間終了後に報告してもらう。
- ・ 協力者名を環境配慮者（事業所）として、ホームページ上に報告内容と共に掲載。
- ・ 報告内容から得られる効果を検証し、ホームページ上に掲載していく。

【効果】

- ・ 環境配慮者（事業所）として掲載されることで、更なる意識の向上が期待でき、企業ではイメージアップに繋がる。
- ・ 具体的な取組み内容が広がることで、新たな取組みが期待できる。
- ・ 節電＝経費削減に繋がる。

5. アイドリング・ストップ運動

実施内容：地球温暖化、大気汚染及び騒音の防止のため、環境省が実施している「アイドリング・ストップ運動」に賛同し、期間中のアイドリング・ストップを呼びかける。

実施期間：環境省で定める6月の環境月間、12月の「大気汚染防止推進月間」及び「地球温暖化防止月間」に合わせて実施。

実施方法：伊那市公式ホームページに掲載
市役所駐車場内に啓発のぼり旗を設置
職員向けポータルサイトに掲載し、市職員への実行を呼びかけ、率先して推進していく。

【検証】

- ・ 市役所駐車場内だけにのぼり旗を設置しているに止まっているため、アイドリング・ストップに対する意識が普及していない結果となっています。
- ・ 不必要なアイドリングはしないという意識を持ってもらうため、のぼり旗以外にも広く周知する必要があります。

【H25 年度実施方法】

- ・ 協議会を中心に関係者等に呼びかけ、運動の普及に繋げる。
- ・ アイドリング・ストップ運動に賛同いただける事業者を「アイドリング・ストップ宣言事業者」というような形で、ホームページに掲載していく。
- ・ アイドリング・ストップによる効果を広報していく。

【効果】

- ・ 運動が拡大することで、意識の向上に繋がる。
- ・ 事業所にとってイメージアップに繋がる。

6. 夏の省エネ・節電対策のチラシ配布及び広報番組で紹介

実施内容：夏期の家庭で出来る省エネ・節電対策のチラシを全戸配布。
いーなチャンネルで紹介。

実施期間：7月～9月を対象

実施方法：チラシは7月号市報発送に合わせ全戸配布。

7月のいーなチャンネルで放送。

【検証】

- ・ 国及び県でも同内容でホームページに掲載され、各メディアでも紹介されているため、実施成果も確認できます。今以上の効果を求めるには、更なる取組み内容について紹介していく必要があります。

【H25年度実施方法】

- ・ H24年度内容については基本的な取組み内容として引き続き紹介。
- ・ エネルギーの見える化の普及
- ・ クールシェアスポットの紹介。
- ・ 「我が家の省エネ・節電対策」を募集し、ホームページ等で紹介。

【効果】

- ・ 基本的な取組みを紹介することで、再確認が出来る。
- ・ エネルギーの見える化により新たな取組みの実施に繋げることができる。
- ・ クールシェアスポットに出かけることで、家庭の電力消費が減り、電力のピークカットに繋がる。また、経済効果も期待できる。
- ・ 省エネ・節電対策を募集し紹介することで、新たな取組みへと繋がる。

7. 冬の省エネ・節電対策のチラシ配布及び広報番組で紹介

実施内容：冬期の家庭で出来る省エネ・節電対策のチラシを全戸配布。

いーなチャンネルで紹介。

実施期間：12月～3月を対象

実施方法：チラシは12月号市報発送に合わせ全戸配布。

12月のいーなチャンネルで放送。

【検証】

- ・ 冬期は夏期よりエネルギーの消費が増加するため、夏期以上に対策を強化していく必要があります。しかし、無理な取組みは健康面へ影響することから、それぞれの事情に合った取組を見つける必要があると考えられます。
- ・ 暖房の効果的な使用方法はどうしたらよいかを紹介していく必要があります。

【H25年度実施方法】

- ・ H24年度内容については基本的な取組み内容として引き続き紹介。
- ・ エネルギーの見える化の普及
- ・ 自宅の構造を把握するよう呼びかける。
- ・ ウォームシェアスポットの紹介。
- ・ 化石燃料を用いない暖房器具として薪・ペレットストーブの紹介。
- ・ 断熱リフォーム等の効果について紹介。

【効果】

- ・ 自宅の構造を把握することで、効率の良い暖房方法を見つけ出すことができる。
- ・ エネルギーの見える化により新たな取組みの実施に繋げることができる。
- ・ ウォームシェアスポットに出かけることで、家庭のエネルギー消費が減る。
- ・ 薪・ペレットストーブが普及することで、森林エネルギーの活用が進む。